

## 長崎ハウステンボス

右城 猛

### まえがき

2004年11月20日(土)、21日(日)、妻と和恵の家族3人で長崎ハウステンボスに行くことにした。

和恵は、来年春に高知工科大学を卒業し、構営技術コンサルタントに就職が決まっている。社会人になれば、私たちと一緒に旅ができる機会もなくなるだろうと思えたからである。

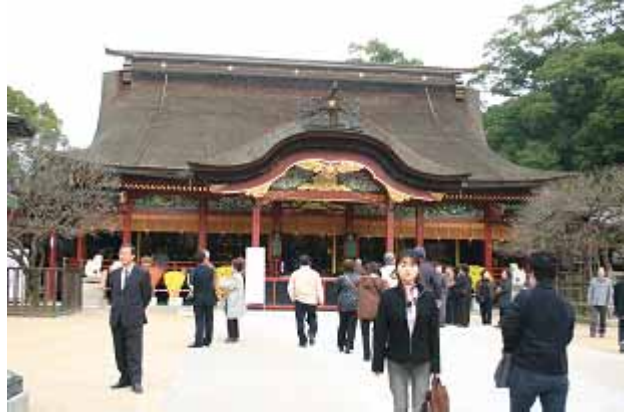
### 太宰府天満宮

福岡空港でレンタカーを借り、太宰府市にある太宰府天満宮へを見学することにする。到着したのは10時前。

太宰府天満宮は、菅原道真を祭神として祀る天満宮の一つ。京都の北野天満宮とともに全国天満宮の総本社とされ、初詣の際には九州はもとより日本全国から毎年200万人以上の参詣者がある。



太宰府天満宮の境内には、「心」の文字をかたどった「心字池」があり、「太鼓橋」「平橋」「太鼓橋」の順に3つの橋が架けられている。この3つの橋は、仏教思想の過去・現在・未来という三世一念を表現しており、橋を渡ると心身ともに清められるといわれている。



太宰府天満宮の本殿は、菅原道真の墓所に建立されている。

本殿に向かって右側の梅の木は、空を飛んできて生えたとされている御神木『飛梅』。



境内には約2000種、6000本の梅の木がある。

### 有田焼き

佐賀県の有田町には13時に到着する。有田焼とは、有田町を中心に焼かれる磁器である。伊万里港から積み出しがなされていたことから「伊万里」とも呼ばれている。

江戸時代後期に各地で磁器生産が始まるまで有田は日本国内で唯一、長期にわたって磁器の生産を続けていた。



交流プラザ有田館で、有田焼人形を用いた人形浄瑠璃劇「黒髪山の大蛇退治」を観る。上演時間は約7分間。



有田焼の人形



有田館の2階でコーヒーを飲む。コーヒーを飲むのに有田焼、マイセン焼、景德鎮焼の好きなカップを選ぶことができる。



有田焼ミクロスを販売している明治夢庵。ミクロスとは、犬、猫などをデザインした有田焼のミニチュアのこと。



有田焼ミクロス



有祥堂(ゆうしょうどう)で有田焼のコーヒーカップを購入する。

## 長崎ハウステンボス

15時30分、長崎県佐世保市にあるハウステンボスに到着する。

ハウステンボスは、オランダの街並みを再現したテーマパーク。



ハウステンボスへ入国して最初に出迎えてくれるのが、この「キンダルデイク」。空へ向かってそびえる風車やゆったりと流れる運河を見渡せば、まるでオランダの田園風景に身を置いているかのようなのである。



ハウステンボスの中を歩いていると、ヨーロッパに来ているような錯覚に陥る。



足長おじさん



私たちが宿泊したホテルデンハーグ(HOTEKL DEN HAAG)。



ホテルデンハーグの前に係留されている帆船「観光丸」。



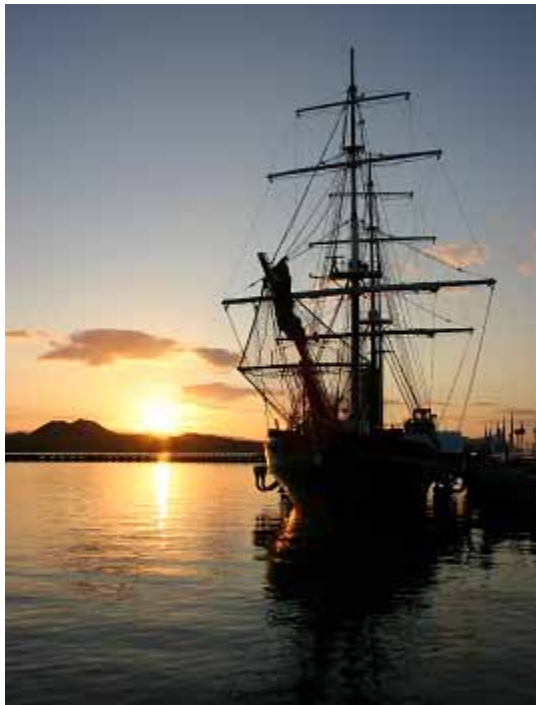
自動車から吹き出されるシャボン玉を撮影したら、不思議な模様になっていた。



ハウステンボスのイルミネーションは東洋一と言われるだけありとても綺麗である。



ホテルヨーロッパの夜景



朝、5時になると日の出がはじまる。日の出と共に、木村湾に浮かんだ帆船「観光丸」が浮かび上がり、とても美しい。



ハウステンボスの象徴であるパレス ハウステンボスの後ろ側には、フランスの造園家が手がけたバロック様式の「パレスハウステンボス宮廷庭園」が広がっている。



マリナーターミナルの桟橋。後方に見える高い建物は、ハウステンボスのシンボルタワー「ドムートルン」。オランダで最も高い教会鐘楼を再現したものである。



サンタクロースが窓から入ろうとしている「ホテルアムステルダム」



シンボルタワー「ドムトールン」の展望台から眺めたハウステンボスの園内。



観光丸に乗船する。



復元・建造された帆船「観光丸」。

国立アムステルダム海事博物館所蔵の設計図と模型をもとにして、オランダ・ハウステン市のフェロルメ造船所でできる限りかつての姿に近く復元・建造された。内装材や甲板などは、当時の観光丸が使用したのと同じ材料を使っている。船体、船室、キャビンなどの彫刻も当時のままに再現されている。建造費は12億円。

観光丸は、オランダ王国ウィレム3世から徳川幕府に献上され、長崎海軍伝習所の練習艦として使用された日本初の蒸気帆船。勝海舟、榎本武場、坂本龍馬など幕府の武士たちは、この船で当時の最新の航海術を学んだ。



観光丸の船首から撮影した甲板の様子。



この紀行文を書いたのは 旅行から6年後である。

(2010.10.10日・記)